

プリ・キンダーガルテンスクール
サイクロン「ファニ (Fani)」に関する報告

去る4月28日、テレビの全国放送のニュースでは、猛烈な勢力を伴ったサイクロン「ファニ」がベンガル湾で発生し、インド南部タミル・ナードゥ州を直撃すると報じていました。なお、このサイクロンによる暴風雨の影響はオリッサ州には全く影響はありませんとも地元のテレビ局からは伝えられていました。ところが4月31日になると国営放送では、このサイクロンの進路はインド南部からオリッサ州に変わったと報じられました。同日、県当局からは、サイクロン「ファニ」がプリ沿岸に上陸するので、低い土地及び沿岸部の住民は政府の準備した避難所へ直ちに避難するようにと、スピーカーから大音量で避難勧告がなされました。またホテルに滞在していた観光客には臨時列車を用意したので夕刻までに退去するよう勧告がありました。しかし、ここ最近のオリッサ州を通過したサイクロンは、それほど被害を及ぼさなかったため、ほとんどの人はさほど深刻にこのことを受けとめていませんでした。ところが5月3日、早朝、雨が降り、風が吹き始めると、皆、おびえ始めました。サイクロンはプリ沿岸に午前8時に上陸し5時間に及ぶものでした。このサイクロンの中心部の風速は最初は28kmでした。

午前8時頃、風速がほぼ時速150kmだった時に暴風雨が最も過酷でした。それから30分もしないうちに今度は風速が時速250km（秒速70メートル）に。それに加え猛烈な雨が木や建物に打ちつけていました。風が非常に強かったため木は根こそぎ倒され、アスベスト製の屋根は飛ばされ、窓も粉々にされ、特に沿岸部の建物は窓も扉も壊れ次々と倒壊していきました。サイクロンの暴風雨が続いたのは5時間弱でしたが、その間にパニックが始まりました。風と雨の音が非常に激しかったので子どもたちを始めとして泣き叫ぶ声が響いていたのです。嵐がほぼおさまり、少しずつ人々が外に出てみると、倒れた木は道を塞ぎ、ほとんどの建物は被害を受けているのが見えました。こんなに酷くなるとは誰も予想することが出来ませんでした。

オリッサ州内にある3つの県がこの深刻な被害をもたらしたサイクロンの被害を受けましたがプリ県に上陸したため、プリが一番の標的となっていました。県内では「クチャ」と呼ばれる泥と竹で出来た家の被害が最も深刻です。州当局によると189,095軒の住宅、会社、警察署長と税務署長の邸宅も被災したということです。膨大な量の木が根こそぎ倒れたので、交通は混乱していました。政府の発表によると、州内では家畜3,400万頭、また州内の被災者の総計は165万人以上となります。サイクロン「ファニ」による死者は64名。その内39名はプリ県です。サイクロン「ファニ」はプリに住む幾千もの人々の生活や仕事を破滅させました。ココナツ農家のほとんどの木は、なぎ倒され、彼らの唯一の収入源は奪われました。被害の大きさは道路や高速道路沿いの倒された木、電柱、看板を見れば分かります。

プリ県の電力では220キロボルトのものが75塔、132キロボルトのものが25塔被害を受けました。プリの普段は大変賑わっているシーフロント地域のホテルは停電と断水のために閉館し荒れ果てています。何千人もの電気工事技師や保健衛生のエンジニアが昼夜問わず電気と水道の復旧に努めていますが酷暑の中では、数週間で終えることの出来る範囲ではないのが現状です。電話や携帯の基地局も被害を受け、電話、携帯、もほぼ全域で使えません。プリでは電話と携帯電話は不通ですが、携帯電話のための臨時基地局がいくつ

か立てられ始めています。

サイクロン「ファニ」は、プリ・キンダーガルテンスクールにも甚大な被害をもたらしました。メインホール、職員室、その他の2つの部屋、発電機室の屋根は完全に吹き飛ばされました。幼稚園の前方と右側の塀も崩れ落ち、貯水槽も被害を受けました。他には、ほとんどの扉と窓、天井につけてあったファンと電気、幼稚園の正門も壊れ、敷地内のいくつもの木は倒されました。子どもたちのおもちゃが水没し壊れているのを見ると心が痛み辛くなります。

サイクロンによるナオミ・ビルディングのあるキャンパスへの被害は比較的小さいものでした。正面の鉄製の門、建物の扉1つ、窓数枚と屋上にある貯水槽。ディレクターの住居では屋根の欄干が二箇所落下し、断熱素材で出来た一階の天井が壊れました。

サイクロンの後、電気、電話、携帯電話、インターネットは全て不通のままです。そのため皆さんと連絡をうまく取ることが出来ていません。しかしサイクロンから数日経った時に短時間ではありましたが、わたしたちの身の安全を案じた親愛なる姉であり里親の会代表の松本素代美さんや他の方々からのメッセージを見ることが出来ました。それらのメッセージを見た時には目から涙がこぼれ、主にある多くの兄弟姉妹らがわたしたちのことを気にかけてくださると分かり、温かな気持ちになりました。殺人的な今回のサイクロンはわたしたちの町を破壊し、学校やナオミ・ビルディングをも傷つけましたが、子どもたちや、スタッフやわたしたち家族を傷つけることは出来ませんでした。学校は深刻な被害を受けており、これからどうなるのか途方に暮れますが、神がわたしたちを守り今日も生かされているということを感じたいと思います。わたしたちの生ける神、慈愛に満ちた神は、わたしたちを守り、いかなる時もわたしたちのことを愛していただきます。

ディレクター

S.K.モハンティ

プリ・キンダーガルテンスクールをご支援くださっている皆様

主のみ名を賛美いたします。

私たちの想像を超えた被害の実態が徐々に伝わってまいりました。皆様のお祈りは、現地の方々を支える大きな原動力となっています。里親の会ではサイクロン被害支援のための義援金受付窓口を開設いたしました。

通常振込先に「サイクロン支援」または「義援金」などをご指定下さい。平常活動支援とは分けて取り扱わせていただきます。

受付期限も現時点では限らず、今私たちに出来る最善を現地の受け入れインフラ整備状況などを確認しながら、随時送金をさせていただきたいと思っております。皆様のお祈りご支援を心よりお願いいたします。

更なる被害状況などが詳しく伝わり次第、皆様には情報を発信させていただきます。

2019年5月18日

プリ・キンダーガルテンスクール
里親の会
世話人会代表 松本素代美